

保育で大切にしたいこと

－「つなぐ」「むすぶ」保育－

サガエさん

少し立ち止まってみませんか

保育と生活がエンドレスではないですか

頑張り過ぎていませんか

立ち止まり、よくやっている自分を承認してみましよう

ないもの探すのではなく、あるものを見つけましよう

どの子も、可愛い

わたしだけでなく、先生たち、みんな頑張っている

保育者でよかった

ああ、しあわせ

暮らし

今、すべきことをする

疲れたら、一息入れる

疲れているときは、頑張りすぎない

「なんで」「どうして」を考えない

日々の暮らしはすてきに

快適に過ごす工夫は惜しまない

季節の花を楽しむ、季節を感じる

ゆったり、着心地のいいものを身に付ける

第一話 保育を考える

子どもについて、また、保育について考えてみます

「無為な子ども」と「有為なおとな」

「無為な子ども」

子どもは「何かの目的」「何かの為に」することはありません
身体を動かすこと、声を出すこと、水、砂と遊ぶのは「無為」だから

「有為なおとな」

おとなは「目的」と「為に」行動しています、目的がなければなりません。おとなは、常に「目的」があります

現場でこのコントラストが「子ども」と「おとな」のズレや衝突が起きてきているようにおもいます

おとなの「時間」と子どもの「時間」

おとなの時間は「時計の時間」です

社会のルールは時計の時間で成り立っています

保育者や親も「時計の時間」で動いています

園や学校も「時計の時間」があります

子ども時間

「今」がありますが、「時計」の時間ではありません

「自分の時間」感覚で行動します

付加価値について

付加価値は値打ちや価値を高めることを意味します

出会った言葉「付加価値を一枚一枚剥がすと本当の人間が見えてきます」という言葉に出会いました

保育は「付加価値をつけたり」するのではなく、人間としての剥がすことのできない「やさしさ」「しなやかさ」をはぐくむことかもしれません。

こころで聞く、こころで観る

見る、聞くを考えてみましょう

懸命に見れば、相手の弱み、欠点を見てしまいます
懸命に聞けば、自分の都合の良いことは聞きますが

子どもを「見て」「聞く」、あなたの都合が働くかもしれません
こころで「聞く」はこころに届いたこと
こころで「観る」はこころに届いたこと

均一化と個別化

均一化 みんな同じこと

教育・保育は均一化で行われることがあります

学校教育の授業、集団保育、一斉保育

個別化 子どもの行動特性、特性ですから個々別々です

教育・保育の本来の目的は子どもたちを均一化することではない
ようです。個別化していくのを見守ることかもしれません

親と保育者の役割

扇子の「かなめ」にたとえてみましょう
扇子が開く、閉じるの「かなめ」です

子どもにとっての必要な「かなめ」

「かなめ」が強いと開きません

「かねめ」が弱いと閉じません

「かなめ」がなければバラバラです

親と保育者は「かなめ」です

保育時間

保育時間は園児さんが「登園」そして「降園」する時間ですが園児さんが降園した「保育室のぬくもり」「砂場のあそび跡」が好きです。きっと、保育者を「育て」るのは、この「ぬくもり」「遊びの余韻」かもしれません。

保育時間は日課だけではないのかもしれませんがね

第2話 保育者の役割

園児さんと園児さんを仲良く「つなぐ」

園と保護者の関係を「つなぐ」

保護者と保護者を「つなぐ」ぎ仲間づくりをする

保育者と園児を信頼で「つなぐ」

「つながる」「むすぶ」保育

園児さんの創造性、発見に「つながる」

園児さんの興味関心に「つながる」

園児さんの喜びに「つながる」

「むすばれて」勇気が湧く

「むすばれて」自信が湧く

「むすばれて」友情になる

発達障害と保育者①

保育・保育者は特性を治療や療育とは考えない

保育者は特性をもって生きることを支援する

保育者は特性をもった子どもが生き生きと生きるための支援者

生き生き生きるために「つなぐ」「むすぶ」を保育を通して支援するのが保育者

特性をもった子どもと保護者とを「つなぎ」「むすぶ」を支援する

発達障害と保育者②

発達障害の特性を知り学ぶ

まずは、一般的な特性を知り学ぶ

①固執性が強い、閉鎖性が強い、柔軟性に欠ける、新しいことが受け入れにくいなど

②一般的な特性から発達障害をイメージする

つぎは、本児の特性を知り学ぶ

①一般的では括れないバラツキを知り学ぶ

②軽度、中度、重度を見極めみる

発達障害、保育者の役割③

保育者の役割

- ①特性を知り、保育者との関係づくり
- ②特性を知り、友だちとつなぐ
- ③特性を知り、園とつなぐ
- ④特性を知り、保護者とつなぐ
- ⑤特性を知り、学校とつなぐ

発達障害を「つなぐ」ために④

「つなぐ」には特性を知る

- ①固執性
- ②感情の変化
- ③対人関係（苦手なのか、怖いのか）
- ④理解の仕方（どうしたら理解できるか）
- ⑤伝え方（どうしたら理解できるか）

発達障害と「むすぶ」には⑤

保育者が「むすぶ」には

- ①保育者が特性を受け入れる
- ②保育者を特性のある子どもと関係を「むすぶ」
- ③「むすばれる」は、園児が無理なく過ごすこと
- ④「むすばれないと」園児が生きづらい
- ⑤「むすばれると」そだつ

発達障害、今考えたいこと⑥

保育者は特性のある子どもと「つなぐ」「むすぶ」

保育者が心理士を介して特性のある子と「つなぐ」

保育者は併行通園とつなぐ

保育者は「つなぐ」役割を考えて実践する

保育者は「つなぐ」役割のために、発達障害を知り学ぶ

保育者の「つなぐ」役割を職員、園で共有する

発達障害のあゆみ⑦

「発達障害」の半世紀のあゆみ

- ① 自閉的傾向のある子どもと呼ばれていた
- ② 早期発見、早期治療が叫ばれた
- ③ 対象児に遊戯療法（プレイセラピー）が行われた
- ④ 自閉症の発達機序の究明がはじまる
- ⑤ アスペルガー症候群,ADHD,LD,広汎性発達障害
- ⑥ 発達障害者支援法の成立
- ⑦ 法制化され、支援制度が確立

発達障害の二次障害

引きこもり

うつ的傾向

保育・教育になじみにくい

変化やあたらしいことになじみにくい

保育者は二次障害を防止や支援する

「つなぐ」「むすぶ」を実践する

保育者同士のよい関係性づくり

保育者と保護者のよい関係性づくり

園児さん同士のよい関係性づくり

併行通園先とのよい関係性づくり

幼小のよい関係性づくり

第3話 先輩たちの言葉

先輩たちからの言葉、大切にしたい言葉

糸賀一雄先生の言葉

糸賀一雄先生は仕事なかばで病気になります
療養生活をしたとき仏教の教えに出会います
仏教の教えに「転じる」「転換する」ことがあります
糸賀先生は復帰してある言葉を残します
「この子らを世の光に」です
従来は「この恵まれない子らへ、あなたの愛の手を」でした

無財の七施

糸賀一雄先生が生涯、実践の徳目として大切にされたのは
無財の七施

- ①眼施
- ②和顔悦色施
- ③言辞施
- ④身施
- ⑤心施
- ⑥床座施
- ⑦房舎施

子どもたち、先生たち、保護者へ「つたえる」を大切に接しられました

仲村優一先生の援助者の基本

- ① 面接者は、話上手ではなく、聞き上手でなければならない
- ② 相手を積極的に理解しようとする態度でなければならない
- ③ 相手をありのまま受け入れる態度を身につけた人でなければならない
- ④ 指導者ではなく助言者であれ
- ⑤ よき観察者でなければならない

セルフ・ケア(自己管理)

- ① ずるずる休まない、しっかり休む
- ② 回復したら、おおめに休む
- ③ 多少の不調を受け入れる
- ④ スローダウンを身につける
- ⑤ 気晴らしをしない
- ⑥ 身の回りを、無理に整理しない